

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」
「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	までいタイムズ
支援対象者・エリア	福島県南相馬市小高区
企画開催地	小高交流センター
企画名称	地域交流【だれもが“までいな”ひとときを！】
実施期間	①2023年9月8日(金)～10日(日) ②2024年3月1日(金)～3月3日(日)

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

2011年にパルシステムの組合員と役職員が一体となって被災地で支援活動を行う“パル・パラソルカフェ”という取り組みがあり、ボランティアに応募したのがこの活動のきっかけでした。その活動には参加できませんでしたが、それから現在のパル未来花基金が設立し、2015年から助成を受けながら、年2回のペースで、訪問を続けています。(19年度は不採択でしたが、自費で訪問)

震災直後、私達に何ができるだろうかと、という他人事ではない強い思いに駆られ、「ホッとタイムインキャラバン」という名で活動をスタートしました。オリジナル歌集を用意し、歌声喫茶のように一緒に歌うことや、アロマやフラワーアレンジのワークショップ、オリジナルのコースター作りなど、表現する楽しさを味わってもらおうプログラムを実施。試行錯誤しながらも、時代や状況に応じて内容を少しずつ変え、団体名も「までいタイムズ」に変更しました。「までい」とは、福島の方言で「手間暇を惜しまず」「心を込めて」「丁寧に」「ゆっくり」といった意味があります。

その後、皆さんが仮設から復興住宅へ居住されたため、小高区に拠点を移し、活動を継続しました。ほかの地域への訪問はどうするかと、何度かスタッフとミーティングを重ねましたが、私たちの移動手段が限られていることや、一か所を中心に地道に活動の幅を広げていきたいということになり、今も変わらず小高を訪問し続けています。

実施プログラムはコロナ禍で変更せざるを得なくなり、食事を兼ねた交流会や、歌うことは中止。しかし、これまで続けてきている「輪っかちゃん(コースター)ワークショップ」は、コロナの影響も受けず、誰でも参加可能なため、毎回大好評となっています。靴下屋のTABIOさんご協力のもと、靴下の廃材を使ったこのコースター作りは、形状が輪になっていることや、人と人の輪、東京と小高を繋げる、という意味で「輪っかちゃん」と呼んでいます。ゴム製なので手を傷つけることなく、力が入りにくいご高齢の方や子どもでも容易に取り組みます。参加者の中には、リピーターもおり、時間や数に制限なく、出入り自由にし、好きなだけ作成していただいています。被災した女性が、自然と震災のことを話しながらコースターを作っていたり、男性が意外なピンクのコースターを作っていたり、毎回イキイキしている様子が伺えます。ちいさなお子さまには工作やお絵かき等の造形スペースを用意し、親子での参加も年々増えてきました。日頃忙しい中、束の間ですが、おしゃべりしながら、ゆっくりとした時間を過ごしてもらえようように心掛けています。

23年度も昨年度に引き続き、南相馬市からの後援の承認を受けることができました。小高区の地域振興課や地域の協力のもと、区内の公共施設や駅、飲食店などへのポスター掲示やチラシ配布ができ、また施設

利用料の免除などの優遇もあり、私たちの活動が行政に理解され、少しずつ地域に根付いてきた実感があ
ります。

年々、交流センターの利用者が減少し、参加者集めに苦戦することがあります。次年度は「輪っかちゃん
ワークショップ」をベースに、場所も含め再検討し、老若男女に参加していただける企画を考えていき
たいです。仕事や家族の都合で宿泊できないメンバーが多く、現地に伺えるスタッフは限られていま
すが、シンプルでアットホームなプログラムを今後も実施していきます。

「継続は力なり」をモットーに、“被災地を忘れない”パルシステムのスローガンと共に、までいな時間を
皆さんと過ごしていけるように、引き続き通い続けたいと思います。

活動の様子（写真など）

※別紙参照

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。

